

【総説】

愛着スタイルが影響を及ぼす因子に関する文献検討 — 看護師のメンタルヘルス支援における愛着スタイルの適用の検討 —

西森 直美¹・上田 智之²

【要旨】

本研究では、愛着スタイルの研究の動向を明らかにし、看護師のメンタルヘルス支援への愛着スタイルの適用の可能性について検討することを目的とした。医学中央雑誌 Web 版で2021年まで「愛着スタイル」等のキーワードで検索を行い、合計20文献を対象文献とした。

その結果、調査対象は大学生・専門学校生が12本と一番多く、看護師が調査対象となっている文献はなかった。愛着スタイルの尺度は4種類使用されていた。愛着スタイルが影響している下位尺度は44項目あり、それらを【認識】【行動】【感情】【身体】【社会】の5つのカテゴリーに分類した。特に【感情】に分類された下位尺度と関連を示すものが多く、ストレスコーピング行動との関連について4件の文献があった。

以上のことから、愛着スタイルは認知的評価やメンタルヘルスに影響することが考えられ、看護師のメンタルヘルス支援への愛着スタイルの適用の可能性が示唆された。

キーワード：愛着スタイル、看護師、メンタルヘルス、文献検討

【緒言】

わが国における精神障害に罹る労災請求件数は、1456件（2014年度）¹⁾ から2051件（2020年度）²⁾ と増加傾向である。労働者のメンタルヘルスの低下は、労働者人口の減少や生産性の低下など社会に大きく影響を及ぼす問題となっている。医療分野において近年、医療の専門化・高度化、超高齢社会、新型コロナウイルス感染症のパンデミックなどにより、看護職に対する専門性への期待はより高まっている。こうしたなかで、2020年度の「労災補償における精神障害の請求件数の多い職種（中分類）」³⁾ の保健師・助産師・看護師は、一般事務従事者、介護サービス従事者に次いで3番目に多く、看護職の心の健康は問題となっている。

看護職の職場ストレスの要因として、仕事の裁量権、周囲のサポート（同僚、上司、友人、家族）、教育体制、夜勤の有無、超過勤務、人員不足などが環境要因としてあり、ワークライフバランス、家族

構成、首尾一貫感覚、経験年数、職場満足度、パーソナリティの神経症傾向などが個人要因として関連している^{4)~9)}。

ストレスは環境に影響されるばかりではなく、出来事をどのように捉え、どのように対処するか、個人の認知的評価やストレス対処行動によって、その後のストレスを無害・有害にするかが決まる¹⁰⁾。安定したメンタルヘルスを保つには、看護師自身がストレスに気づき対処するセルフマネジメント力が重要である。これらの事を踏まえ、看護職の職場ストレスの低減に影響する要因として、対人スキルやどのように出来事を捉えるかの個人特性が考えられる。そこで対人関係の形成に影響しパーソナル特性とも言われている愛着スタイルに着目した。

「愛着理論では、愛着とはある人と愛着対象（人物）との間の絆（a bond）やつながり（tie）のことを意味」¹¹⁾する。人は恐怖や危険を察知した時に愛着対象との接近を求め（愛着行動）、自らが安全感を回復・維持しようとする。乳幼児の愛着行動に

¹九州看護福祉大学 看護福祉学研究科 看護学専攻、²九州看護福祉大学 看護福祉学部 看護学科

よって、愛着対象は安全な避難場所や安全基地となり安心と保護を与える。そして、乳幼児にはポジティブな感情が生まれ、この相互作用によって安定した愛着を形成していく。この過程を乳幼児期から繰り返すことによって愛着の個人差となり、内的作業モデル Internal Working Model（以下 IWM とする）として内在化され¹²⁾、対人関係における基礎が形成される。

愛着に関する研究は、1980年代になり成人の愛着を測定する研究がされ始め、調査対象が乳幼児から成人へと拡大した。青年後期・成人期における親密な対人関係での様々な行動を説明する際に広く用いられている概念として、愛着スタイルがある。愛着スタイルとは、愛着の個人差を意味するだけでなく、ストレス状況下において繰り返される愛着対象との間での相互作用の質に応じて形成されたパーソナリティ特性であると見なすこともできる¹³⁾。よって愛着スタイルの特性は、ストレス下に無意識にとる行動に類似するのではないかと考える。

Hazan & Shaver (1987) は、子供と養育者間の愛着関係の特徴に注目した愛着スタイルから、成人の恋愛関係に拡張させた。乳児期の家族関係や恋愛経験の違いを、安定型、アンビバレント型、回避型の3類型とした¹⁴⁾。Bartholomew & Horowitz (1991)¹⁵⁾ は、Bowlby の IWM に基づき、2次元・4分類モデルを提案した。愛着対象は自分の求めに応じてくれる人物かの自己観と、自分は愛着対象から援助を受けられる人物かの他者観とし、これらがポジティブかネガティブかで安定型、拒絶型、とらわれ型、恐れ型の4つに分類した。自己観と他者観の両方がポジティブなモデルを持つのは安定型、他者観はポジティブで自己観はネガティブなモデルを持つのはとらわれ型、自己観はポジティブで他者観がネガティブなモデルを持つのは拒絶型、自己観と他者観の両方がネガティブなモデルを持つのが恐れ型である。

これまで愛着スタイルと感情に関する研究が行われ、安定型とポジティブな感情、アンビバレント型と回避型の不安定型はネガティブな感情との関連が明らかになっている¹⁶⁾。また幼少期の愛着スタイルは成人期の愛着スタイルとの共通性も示されており¹⁶⁾、乳幼児期の愛着形成が成人期の対人関係に影響を及ぼしていると考えられる。

乳幼児期は主な養育者である母親などが愛着対象

で、社会性は家族関係が中心である。その後の青年期や成人期は、発達と共に愛着対象が友人や恋人・配偶者やパートナーへと移行する。そして社会的な人間関係も友人や仕事関係へと拡大し、対人ストレスを感じやすい環境に置かれるようになる。青年・成人期の複雑な人間関係の環境において、友人や恋人・配偶者やパートナーなどの愛着対象が安全基地となれば、対人ストレスも緩和される。

看護職は生命の危機に直面している患者や家族を対象とする対人援助職である。また多異職種との連携も必要である。これらの環境における看護職の対人ストレスは、メンタルヘルスに大きく影響すると考える。しかし、看護分野における愛着スタイルに着目した研究は、母性領域の母親を調査対象とするものは見られるが、看護師を調査対象としたものは確認できなかった。そこで本研究では、愛着スタイルの研究の動向を明らかにし、看護師のメンタルヘルス支援への愛着スタイルの適用の可能性について検討することを目的とした。

【目的】

愛着スタイルの研究の動向を明らかにし、看護師のメンタルヘルス支援への愛着スタイルの適用の可能性について検討する。

【方法】

1. 研究デザイン

文献研究

2. 研究対象

愛着スタイルに関する原著論文で、青年期・成人期に属するもの、愛着スタイルを分析したものとした。また、精神障害の患者を研究対象としたものは除外した。

3. 対象文献の収集方法

文献は、医学中央雑誌 Web 版を用いて、検索漏れを防ぐため検索年の期間は限定せず2021年までとし、原著論文を検索した。検索キーワードを、(愛着スタイル)、(愛着スタイル and 抑うつ)、(愛着スタイル and パーソナリティ)、(愛着スタイル and

メンタルヘルス)で検索した。

4. 対象文献の分析方法

対象文献は、著者、発行年、タイトル、研究目的、調査対象、測定尺度、研究デザイン、影響因子に整理した。次に、対象文献の傾向を見るために、①年次推移、②調査対象と研究分野、③研究デザイン、④測定尺度の視点で分析した。また、愛着スタイルとの関連が明らかになった下位尺度をカテゴリ化した。その際に、うつ病や不安障害の治療の一つとして行われる認知行動療法の認知行動モデルの【認識】【行動】【感情】【身体】の4つを参考に、それに【社会】を加えた。認知行動療法は、自分自身の心の状態や関連性を知り、それを変えられるという実感を通して自らを制御する力をつけていく自己コントロール法である。人の心の状態は、個人の認知、行動、感情、身体的反応はストレス反応と密接に関係している¹⁷⁾。

5. 本研究における用語の操作的定義

中尾は「愛着スタイルとは、愛着の個人差を意味するだけでなく、ストレス状況下において繰り返される愛着対象との間での相互作用の質に応じて形成されたパーソナリティ特性である」¹³⁾とした。

本研究では中尾に基づき「看護師の愛着スタイルとは、ストレス状況下において繰り返される愛着対象との間での相互作用の質に応じて形成されたパーソナリティ特性」とする。

6. 倫理的配慮

倫理的配慮がなされた論文を用い、文献の著作権を遵守した。引用は原論文に忠実であることに努め、文献の出典は、原著論文、文献、出版社、出版年、引用箇所を明示することに注意して研究を実施した。

【結果】

検索キーワードの(愛着スタイル)は68件、(愛着スタイル and 抑うつ)は13件、(愛着スタイル and パーソナリティ)は25件、(愛着スタイル and メンタルヘルス)は3件が抽出された。この中から、重複するものと選定基準から外れるものを除外した。その結果研究対象文献は20件となった。

研究対象とした20文献について、著者、発表年、タイトル、研究目的、調査対象、測定尺度、研究デザイン、影響因子に整理し表1にまとめた。

1. 論文数の年次推移

文献の発表年ごとに数をまとめた。2005年1件、2007年1件、2010年3件、2012年2件、2013年4件、2014年1件、2017年1件、2019年1件、2020年2件、2021年4件だった。

2. 調査対象の分類と研究分野

分析した20文献のうち、調査対象は大学生・専門学生が12件、一般成人が4件、乳幼児の母親が2件、妊婦1件、作業療法士が1件だった。研究分野別では、心理学分野17件、医療分野3件だった。医療分野の3件のうち2件は母性領域の母親を調査対象としたもの、もう1件は作業療法士を調査対象としたものだった。

3. 研究デザイン

研究デザインは、20件全てが量的横断研究だった。

4. 測定尺度

測定尺度は、4種類あった。成人版愛着スタイル尺度^{16), 27), 45)}が3件、内的作業モデル尺度 Internal Working Model Scale (IWFS)^{25), 28), 29), 33), 44)}が5件、関係尺度 Relationship Questionnaire generalized other (RQ-GO)^{24), 36), 43), 46)}が4件、一般他者版成人愛着スタイル尺度 Experiences in Close Relationships inventory generalized other (ECR-GO)^{16), 26), 29), 30), 31), 32), 34), 35), 41), 42)}が10件であった。

成人版愛着スタイル尺度¹⁸⁾は、Hazan and Shaver (1987)の尺度¹⁴⁾を詫摩・戸田(1988)が邦訳した。安定型、アンビバレント型、回避型の3つのスタイルに関する記述文を選択することで個人の愛着スタイルを把握するものである。

IWFS¹⁹⁾は、成人愛着スタイル尺度をもとに3因子18項目からなる戸田(1988)の尺度である。

RQ-GO²⁰⁾は、Bartholomew and Horowitz (1991)が開発した『Relationship Questionnaire (RQ)』²²⁾を、加藤(1998)が翻訳した。自分は他者から愛されたりする価値があるかについての自己モデルと、他者は信頼できるかについての他者モデルの2次元を組み合わせて、成人の愛着を安定型、とらわれ型、

拒絶型、恐れ型の4つに分類し測定するものである。

ECR-GO²¹⁾は、Brennan, Clark, and Shaver (1998)が開発した『Experiences in Close Relationships (ECR)』²³⁾をもとに、中尾・加藤(2004)が一般他者を想定した尺度である。自己価値の低さや見捨てられ不安の「不安」と、親密さへの不快感や他者への不信感の「回避」の2因子から構成されている。

5. 愛着スタイルが影響を及ぼす因子

愛着スタイルが影響を及ぼす下位尺度は44項目あった。その因子を認知行動モデルの【認識】【行動】【感情】【身体】と【社会】の5つに分類し、愛着スタイルが影響する因子について表2にまとめた。

【認識】のカテゴリーでは、[自尊感情][関係評価][主體的自己][レジリエンス][敵意][技術への自負][職業アイデンティティ]の7項目に影響を及ぼしており、5件の文献で検討されていた。安定型の愛着スタイルを持つ大学生は、不安定型よりも[自尊感情]が高いことが示された²⁴⁾。内的作業モデル(IWM)安定型得点の妊婦は、[レジリエンス]得点と正の相関、アンビバレント型と回避型は負の相関を認めた²⁵⁾。ポジティブな愛着スタイルを持つ作業療法士は、[職業アイデンティティ]を高めやすかった²⁶⁾。

【行動】のカテゴリーでは、[問題解決][相談][問題放置][問題焦点型コーピング][情動焦点型コーピング][恨み・発散型コーピング][言語的攻撃][攻撃性][未熟な防衛機制][ポジティブ関係コーピング][ネガティブ関係コーピング][過剰適応][反芻]の13項目に影響を及ぼしており、7文献で検討されていた。そのうち3文献がストレスコーピング行動との関連を検討しており、安定型傾向は問題解決や相談を用いるコーピング行動、不安定型傾向(アンビバレント型、回避型)は問題放置や相談を回避するコーピング行動をとる傾向があった¹⁶⁾²⁷⁾²⁹⁾。

【感情】のカテゴリーでは、[表出性][感受性][統制][職場ストレス][特性不安][状態不安][抑うつ][ネガティブ感情][精神的不健康][対人不安傾向][良かった][悲しい][焦る][たのしい/面白い][嬉しい][不機嫌・怒り][無気力][産後うつ病][育児ストレス][幸福]の20項目に影響を及ぼしており、12文献で検討されていた。5つの

カテゴリーの中で最も多く検討されていた項目であった。

ポジティブな感情とネガティブな感情の生起に愛着スタイルの特徴が示されていた。青年期の大学生の情動生起との関連について、安定型は対人恐怖回避型よりも有意に[楽しい]という情動が高かった。安定型・とらわれ型は対人恐怖回避型よりも有意に[嬉しい]が高かった。とらわれ型は対人恐怖回避型よりも[悲しい]という情動が有意に高く、対人恐怖回避型は拒絶回避型よりも有意に[焦る]が高かった³⁰⁾³¹⁾。また安定型は、[表出性][感受性]と有意な正の相関を、不安定型は[表出性]と有意な負の相関を示し¹⁶⁾²⁹⁾、[敵意]的で易怒性が高い³²⁾。

またストレスや抑うつとの関連について6つの文献で検討されていた。女子大学生の心理的ストレス反応との関連において、安定型傾向は、[抑うつ・不安]とは相関を示さず、[不機嫌・怒り][無気力]と有意な負の相関が示された。回避型傾向は、[不機嫌・怒り][無気力]との間に有意な正の相関、アンビバレント傾向は、[抑うつ・不安][不機嫌・怒り][無気力]の全てと有意な正の強い相関を示した²⁹⁾。母親の「不安/両価型」は[育児ストレス]が高く³³⁾、「見捨てられ不安」は[産後うつ病]に有意な正の影響を与えていた³⁴⁾。また、就労成人の職場ストレスとの関連について、安定型は[職場ストレス]との間に負の関連を示し、回避型とアンビバレント型は有意な正の相関を示した²⁸⁾。

【身体】のカテゴリーでは身体的な要因と愛着スタイルの関連を検討する文献は1件で、「身体的負担感」に影響を及ぼしていた。

一般成人の小児期の逆境経験が身体症状による負担感に及ぼす影響において、愛着スタイルの媒介効果を検討した結果、愛着不安と愛着回避は[身体症状による負担感]に有意な正の影響を示した³⁵⁾。

【社会】のカテゴリーでは[協調的対人関係][良好な親子関係][ソーシャルサポート]の3つに影響を及ぼしており、2つの文献で検討されていた。幼稚園に子供を通わせている母親の愛着スタイルとソーシャルサポート認知の関連について、安定型は回避型よりも[ソーシャルサポート]得点が有意に高かった³³⁾。青年期の大学生の愛着スタイルと自立との関連において、[協調的対人関係]得点は安定型がとらわれ型より有意に高かった。また[良好な

表1 愛着スタイル研究に関する研究の概要①

番号	著者、 発行年	タイトル	研究目的	調査対象	測定尺度	デザイン	影響因子
1	金政 2005	青年期の愛着スタイルと感情の調節と感受性ならびに対人ストレスコーピングとの関連 幼児期と青年期の愛着スタイル間の概念的ー貫性についての検討	①青年期の愛着スタイルと感情調節との関連を検討 ②青年期の愛着スタイルと対人ストレスコーピングとの関連について検討	①大学生460名 ②大学生393名	①IWFS ②ECR-GO	量/横断	ポジティブ関係コーピング ネガティブ関係コーピング 解決先送りコーピング 感受性 表出性 統制
2	渡辺 2007	職場におけるストレス・コーピング愛着スタイルとの関連の検討	成人の持つ愛着スタイルが職場ストレスコーピングに与える影響を検討	就労男女229名	IWFS	量/横断	問題解決 相談 問題放置
3	福井 2010	成人愛着スタイルと解離傾向の組み合わせが心理的健康に及ぼす影響	成人愛着スタイルと解離傾向の組み合わせが、心理的健康に及ぼす影響について検討すること	大学生804名	ECR-GO	量/横断	自尊感情 特性不安 状態不安 GHQ 抑うつ
4	金政 2010	中年期の夫婦関係において成人の愛着スタイルが関係内での感情経験ならびに関係への評価に及ぼす影響	中年期の夫婦関係において、成人の愛着スタイルが関係内の感情経験および関係への評価に及ぼす影響についての検討	中年期の夫婦 115組	ECR-GO	量/横断	ネガティブ感情 関係評価
5	立丸, 他 2010	女子大学生における愛着スタイルとストレスコーピングならびに精神的健康との関連	個人の愛着スタイルの特徴を類似化し、愛着スタイルと選択するコーピングや精神的健康度との関連について検討する	女子大学生223名	成人版愛着 スタイル尺度	量/横断	問題焦点型コーピング 情動焦点型コーピング 恨み・発散型コーピング
6	泉, 他 2012	特定の他者ごとに特有な内的作業モデルを想定した愛着スタイルと対人不安の関連の検討	対人不安と愛着スタイルの両方について他者との関係性を考慮した検討を行う	大学生148名	RQ-GO	量/横断	対人不安傾向
7	秋葉 2013	中高年期の攻撃性 自己愛傾向と愛着スタイルとの関連からの検討	中高年期における攻撃性を自己愛傾向および愛着スタイルとの関連から検討。これに性差、年代差を含めて検討した	39歳～69歳の男女 350名	IWFS	量/横断	言語的攻撃
8	村木, 他 2012	青年期の愛着スタイルと自立との関連	青年期の愛着スタイルと自立との関連	大学生、専門学校生 360名	RQ-GO	量/横断	良好な親子関係 協調的対人関係 主体的自己
9	上條, 他 2013	青年期の愛着スタイルと情動生起の関連性について	愛着スタイルと対人関係におけるポジティブな場面、ネガティブな場面の情動生起の関連 性を明らかにすること	大学生、専門学校生 224名	ECR-GO	量/横断	楽しい 良かった 嬉しい 悲しい 焦る
10	岡田, 他 2013	なぜ人は攻撃するのか 攻撃性と愛着スタイル及び防衛機制との関連	攻撃性を愛着スタイル及び防衛機制との関連から検討	大学生395名	成人版愛着 スタイル尺度	量/横断	攻撃性 未熟な防衛機制
11	藤田, 他 2013	妊婦のレジリエンスと内的ワーキングモデルおよび精神健康度との関連 初産婦と経産婦の違い	妊婦のレジリエンスの特徴を初産、経産を含めた属性、愛着スタイルおよび現在の精神健康度との関連から明らかにすること	妊婦354名	IWFS	量/横断	レジリエンス
12	小西 2014	青年期の愛着スタイル傾向と社会的適応性 怒りの感情と攻撃性の観点から	青年期を対象に怒りの感情や攻撃性と個人の愛着スタイル傾向との関連を明らかにする	大学生・大学院生 338名	ECR-GO	量/横断	敵意
13	美馬, 他 2017	愛着スタイル特性及び愛着次元とノンバーバルスキル、対人ストレスコーピング、心理的ストレス反応との関連	愛着スタイルとノンバーバルスキル、対人ストレスコーピング及び心理的ストレス反応との関連について、愛着スタイル特性と愛着次元の双方から検討	女子大学生151名	IWFS ECR-GO	量/横断	ポジティブ関係コーピング ネガティブ関係コーピング 感受性 統制 表出性 抑うつ・不安 不機嫌・怒り 無気力

表 1 愛着スタイル研究に関する研究の概要②

番号	著者、 発行年	タイトル	研究目的	調査対象	測定尺度	デザイン	影響因子
14	藤崎, 他 2019	産後うつ病と愛着スタイルをはじめとする要因との関連について	女性の属性と産後うつ病の発症傾向との関連性、ならびに女性の愛着スタイルが産後うつ病の発症傾向に与える影響について検討	女性54名	ECR-GO	量/横断	産後うつ
15	竹端, 他 2020	大学生の愛着スタイルと自己意識および他者意識との関連性	大学生の愛着スタイルと他者との関わりの中で生じる自己の内面への意識および他者に対する意識との関連性について検討した。	大学生204名	RQ-GO	量/横断	過剰適応 反芻
16	小寺, 他 2020	攻撃性と自尊感情および愛着スタイルとの関連	攻撃性と自尊感情、現在・過去の愛着スタイルの関連を検討するとともに、愛着対象者間の愛着スタイルの一致度について検討すること	大学生155名	RQ-GO	量/横断	自尊感情 敵意
17	中井, 他 2021	小児期逆境経験が身体症状による負担感に及ぼす影響 愛着スタイルを媒介変数として	小児期逆境経験(ACEs)が身体症状による負担感に及ぼす影響において、愛着スタイルの媒介効果を検討することと、ACEsが機能的な身体症状候群(FSS)と身体症状およびその関連症候群(SSRD)の罹患経験に及ぼす影響も予備的に検討	一般成人995人	ECR-GO	量/横断	身体症状の 負担感
18	泉, 他 2021	作業療法士の対人関係における自己の親の違いが職業的アイデンティティに及ぼす影響	臨床に従事する作業療法士を対象に、愛着スタイルの自己モデルが職業的アイデンティティにどのような影響を与えるのかを、経験年数ごとに比較をした。	作業療法士90名	ECR-GO	量/横断	職業アイデン ティティ 技術への自負
19	塚本, 他 2021	ソーシャル・サポートと母親の愛着スタイルが育児ストレスに与える影響	ソーシャル・サポートと母親自身の愛着スタイルが育児ストレスに及ぼす影響を検討 ソーシャル・サポートと愛着スタイルがどのような関係を持ちながら育児ストレスに影響を与えているのかを明らかにすること	母親 136名	IWFS	量/横断	育児ストレス ソーシャルサポート
20	直井, 他 2021	恐れ型の愛着スタイルが対人場面における情動生起に及ぼす影響	恐れ型の愛着スタイルが対人場面における情動生起に及ぼす影響について明らかにすること	大学生160名	ECR-GO	量/横断	うれしい 幸福 楽しい/面白い

親子関係] 得点は安定型が、拒絶型、とらわれ型および恐れ型よりも有意に高かった³⁶⁾。

【考察】

愛着スタイルの研究を整理した結果に基づき、看護師のメンタルヘルス支援への愛着スタイルの適用の可能性について考察する。

1. 調査対象と研究デザイン、測定尺度

青年期の学生を調査対象とした文献が12件と半数以上を占めていた。大学生は、青年期は愛着対象が主な養育者から友人や恋人へ移行する時期であるこ

とも要因の一つと考えられる。研究分野は心理学分野17件で大半を占めていた。愛着は発達や対人関係、情緒の形成と関連があるためと考える。看護領域では母性の妊婦や母親を調査対象としたものが2件あった。愛着対象となる母親の愛着スタイルは、乳幼児の愛着形成に影響を与えるため、母性領域で着目されることが多いと考える。

一方、看護師の愛着スタイルに着目した文献は確認できず、看護師を調査対象とすることには新規性がある。准看護師も含めると18歳で資格取得が可能な看護師は、18～60歳までの年齢が調査対象となるので、愛着対象が家族から配偶者まで様々となる。

研究デザインは、量的、横断的研究が全部を占め

表2 愛着スタイルが影響している因子

カテゴリー	因子	文献番号
認 識	自尊感情	3, 15
	関係評価	4
	主体的自己	8
	レジリエンス	11
	敵意	12, 15
	技術への自負	18
	職業アイデンティティ	18
行 動	問題解決	2
	相談	2
	問題放置	2
	問題焦点型コーピング	5
	情動焦点型コーピング	5
	恨み・発散型コーピング	5
	言語的攻撃	7
	攻撃性	10
	未熟な防衛機制	10
	ポジティブ関係コーピング	1, 13
	ネガティブ関係コーピング	1, 13
	過剰適応	15
	反芻	15
感 情	表出性	1, 13
	感受性	1, 13
	統制	1, 13
	職場ストレス	2
	特性不安	3
	状態不安	3
	抑うつ	3
	ネガティブ感情	4
	精神的不健康	5
	対人不安傾向	6
	良かった	9
	悲しい	9
	焦る	9
	楽しい/面白い	9, 20
	嬉しい	9, 20
	不機嫌・怒り	13
	無気力	13
	産後うつ	14
	育児ストレス	19
	幸福	20
身 体	身体症状負担感	17
社 会	協調的親子関係	8
	良好な親子関係	8
	ソーシャルサポート	19

ていた。横断的研究では、調査時点での愛着スタイルを測定することになる。青年期・成人期では愛着対象が移行する時期でもあり、調査時点から時間の経過とともに愛着スタイルが変化する可能性があることを考慮する必要がある。

使用されていた尺度は、4種類あり、一番多く使用されていたのはBrennan, Clark, and Shaver(1998)が開発した『Experiences in Close Relationships (ECR)』だった。愛着を評価するための尺度は、愛着機能に関する尺度と愛着の個人差を測定する尺度に分けられる³⁷⁾。古村・戸田によると「アタッチメント機能を測定するための様々な尺度が存在するものの、どの尺度や測定方法が最も最適なのかは議論の余地が残る。」³⁷⁾としている。研究者は、研究の目的が愛着の機能を測るものか、個人差を測るものかを明確にして尺度を選択する必要がある。

2. 愛着スタイルに影響を及ぼす因子および看護師のストレスとの関連

愛着スタイルの影響を及ぼす因子を、【認識】【行動】【感情】【身体】【社会】の5つのカテゴリーに分類した。

看護師と同じ医療分野である作業療法士の安定型の愛着スタイルを有するものは、他者と相互作用の中で職業的アイデンティティを高めやすい。またアンビバレント型の愛着スタイルを持つ大学生は、表出性が少ない傾向があった。看護職は、患者やその家族に対して自分の感情を抑えて対応することも多く、看護職の表層演技を伴う感情労働は職業アイデンティティに負の影響を及ぼすことが示唆されている³⁸⁾。これらのことから、アンビバレント型傾向は感情の表出を抑え、職業アイデンティティが低い傾向にあること、ストレス反応を起こす傾向が考えられる。

回避型対処行動をとる看護師は「活気の低下」「抑うつ」「イライラ感」「疲労感」のストレス反応が高く、上司や同僚のサポート、家族・友人のサポートが低い³⁹⁾。愛着スタイルとストレスコーピング行動との関連について、安定型が問題焦点型コーピング、拒絶型がネガティブ関係コーピング、とらわれ型は情動焦点型コーピング、恐れ型は問題放置の傾向がある²⁸⁾。これらのことから、回避傾向の高い拒絶型や恐れ型の愛着スタイルを持つ看護師は、

ネガティブ関係コーピングや問題放置の傾向があり、ストレス反応が高く、周囲のサポートを求めない傾向が考えられる。今回は、愛着スタイルとコーピング行動との関連を明らかにした文献は確認できたが、ストレス認知との関連を検討した文献は確認できなかった。ストレス対処する際のストレス認知は、どのような対処行動を取るかを考えることであるため、愛着スタイルが影響している可能性があると考ええる。

安定型傾向の愛着スタイルは、自尊感情やレジリエンスが高い傾向にあった。拒絶型傾向と、とらわれ型傾向の愛着スタイルはレジリエンスが低い傾向にあり、職場ストレスは高い傾向にあった。看護師のバーンアウトは、自尊感情が低下し情緒的消耗から人を避けるような脱人格化へと進行し、離職へと移行する⁴⁰⁾。これらのことから愛着スタイルはバーンアウトにも影響していることが考えられる。そこで看護師の愛着スタイルを測定することによって、メンタルヘルスの評価に必要なストレス対処行動の傾向、自尊感情やレジリエンスの傾向が一つの尺度で把握でき、簡便性のある指標となる可能性がある。

以上のことから、看護師のメンタルヘルスのセルフマネジメントを愛着スタイルの視点から支援できる可能性が示唆された。

【今後の課題】

文献検討の結果、青年期や一般成人、中年期の愛着スタイルは、抑うつや自尊感情、レジリエンス、コーピング行動に影響していた。このことから、愛着スタイルと看護師のメンタルヘルスとの関連性が推測できる。今後は、愛着スタイルと看護師のメンタルヘルスとの関連を明らかにし、メンタルヘルス支援に活用することが課題である。

【結論】

愛着スタイルの研究の動向を概観し、看護師のメンタルヘルス支援への愛着スタイルの適用の可能性について検討した結果、以下の5点が明らかになった。

1. 看護職を調査対象とする愛着スタイルの文献が確認できず、ストレス認知的評価との関連を明らかにした文献は、今回検索した中で0件で

あった。

2. 愛着スタイルを測定する尺度は、機能进行评估するものと特性を分類するものがある。使用されていた尺度は、託摩・戸田（1988）の成人愛着スタイル尺度、戸田（1988）のIWFS、加藤（1998）のRQ-GO、中尾・加藤（2004）のECR-GOの4種類だった。研究目的に合わせた尺度の選択が必要である。
3. 愛着スタイルが影響する因子として、【認識】【行動】【感情】【身体】【社会】の5つに分類された。
4. 出来事に対して愛着スタイルは、ストレス認知的評価やストレス反応に影響を与えることが示唆された。
5. 看護師のメンタルヘルス支援への愛着スタイルの適用の可能性が示唆された。

【謝辞】

本研究の実施にあたり、検討および分析過程において、多大なるご協力をいただいた九州看護福祉大学の森雄太講師および緒方浩志講師に深謝申し上げます。

【引用文献】

- 1) 厚生労働省（2015年6月）. 平成26年度「過労死等の労災補償状況」別添資料2 精神障害に関する事案の労災補償状況. 厚生労働省ホームページ.
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000089447.html>（2022年6月2日閲覧）
- 2) 厚生労働省（2021年6月）. 令和2年度「過労死等の労災補償状況」別添資料2 精神障害に関する事案の労災補償状況. 厚生労働省ホームページ.
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_19299.html（2022年6月2日閲覧）
- 3) 厚生労働省（2021年6月）. 令和2年度「過労死等の労災補償状況」別添資料2 精神障害に関する労災保障状況. 厚生労働省ホームページ.
<https://www.mhlw.go.jp/content/11402000/000796022.pdf>（2022年6月2日閲覧）

- 4) 井奈波良一. 女性病院看護師のバーンアウトと職業性ストレスの関係. 日本健康医学会雑誌. 2021;30(2):170-178.
- 5) 井奈波良一. 女性看護師の主観的幸福度と勤務状況 日常生活習慣および職業性ストレスの関係. 日本健康医学会雑誌. 2018;27(4):294-302.
- 6) 井奈波良一, 井上真人. 女性看護師のバーンアウトと職業性ストレスの関係 第2報. 日本健康医学会雑誌. 2015;63:290-296.
- 7) 川村晴美, 鈴木英子, 中澤沙織, 田辺幸子. 急性期病院で認知症高齢者をケアする看護師の困難感とバーンアウトとの関連. 日本健康医学会雑誌. 2021;30(3):351-360.
- 8) 北島裕子, 鈴木英子, 佐々木晴子. 首都圏の大学病院に勤務する看護師のバーンアウトの関連要因. 日本健康医学会雑誌. 2020;29(1):17-26.
- 9) 川瀬淑子, 岡安誠子, 林 健司. 急性期病院の組織風土が看護師のストレスに及ぼす影響. 日本職業・災害医学会会誌. 2018;66(6):453-458.
- 10) Richard S. Lazarus & Susan Folkman. Stress, Appraisal, and Coping. 本明寛, 春木豊, 織田正美 監訳. ストレスの心理学 [認知的評価と対処の研究]. 東京: 実務教育出版;1991. p.25-52.
- 11) Vivien Prior and Danya Glaser. Understanding Attachment and Attachment Disorders. 加藤和生 監訳. 愛着と愛着障害 理論と証拠にもとづいた理解・臨床・介入のためのガイドブック. 京都市: 北大路書房;2008.p.8.
- 12) Vivien Prior and Danya Glaser. Understanding Attachment and Attachment Disorders. 加藤和生 監訳. 愛着と愛着障害 理論と証拠にもとづいた理解・臨床・介入のためのガイドブック. 京都市: 北大路書房;2008.p.9-19.
- 13) 中尾達馬. 面識があまりなくとも、他者の愛着スタイルを認識することは可能なのか? -愛着スタイル尺度における自己評定と他者評定の一致度の検討-. パーソナリティ研究. 2010;19(2):146-156.
- 14) Hazan,C.,Shaver,P. Romantic love conceptualized as an attachment process.Journal of Personality and Social Psychology. 1987;52:511-524.
- 15) Bartholomew K, Horowitz L.M. Attachment Styles Among Young Adults: A Test of a Four Category Model. Journal of Personality and Social Psychology. 1991;61(2):226-244.
- 16) 金政祐司. 青年期の愛着スタイルと感情の調節と感受性ならびに対人ストレスコーピングとの関連 - 幼児期と青年期の愛着スタイル間の概念的一貫性についての検討 -. 日本パーソナリティ心理学会. 2005;14(1):1-16.
- 17) 塚野弘明. 認知行動療法の理論とモデル. 岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要. 2015;14:451-459.
- 18) 詫摩武俊, 戸田弘二. 愛着理論からみた青年の対人態度 - 成人版愛着スタイル尺度作成の試み - 東京都立大学人文学報. 1988;196:1-16.
- 19) 戸田弘二. 青年期後期における基本的対人態度と愛着スタイル: 作業仮説 (Working Model) からの検討. 日本心理学会第52回会発表表論文集. 1988;27.
- 20) 加藤和生. Bartholomew らの4分類愛着スタイル尺度 (RQ) の日本語版の作成. Journal of Cognitive Processes and Experiencing. 1998;7:41-50.
- 21) 中尾達馬, 加藤和生. 成人愛着スタイル尺度 (ECR) の日本語版作成の試み. 心理学研究. 2004;75(2):154-159.
- 22) Bartholomew, K. & Horowitz, L. M. Attachment styles among young adults: A test of a four-category model. Journal of Personality and Social Psychology. 1991;61:226-244.
- 23) Brennan, K. A., Clark, C. L., Shaver, P. R. Self report measurement of adult attachment: An integrative overview. In J.A.Simpson & W. S. Rholes (Eds.). Attachment theory and close relationships. New York: Guilford Press. 1998:46-76.
- 24) 小寺健太, 桂田恵美子. 攻撃性と自尊感情および愛着スタイルとの関連. 関西学院大学心理科学研究. 2020;46:103-109.
- 25) 藤田佳代子, 刀根洋子, 杉田理恵子, 大久保麻矢. 妊婦のレジリエンスと内的ワーキングモデル

- ルおよび精神的健康との関連－初産婦と経産婦の違い－. 日本ウーマンズヘルス学会誌. 2013;12(1):1-10.
- 26) 泉良太, 堀本ゆかり. 作業療法士の対人関係における自己観の違いが職業アイデンティティに及ぼす影響. 日本リハビリテーション教育学会誌. 2021;4(1):1-7.
- 27) 立丸恵, 中谷隆, 堀匡, 大塚泰正. 女子大学生における愛着スタイルとストレスコーピングならびに精神的健康との関連. 心理臨床学研究. 2010;28(3):336-340.
- 28) 渡辺みな子. 職場におけるストレス・コーピング－愛着スタイルとの関連の検討－. 山梨英和大学心理臨床センター紀要. 2007;2:57-67.
- 29) 美馬玉果. 愛着スタイル特性及び愛着次元とノンバーバルスキル, 対人ストレスコーピング, 心理的ストレス反応との関連. 臨床発達心理学研究. 2017;16:56-73.
- 30) 上條真美, 岡島泰三, 桂田恵美子. 青年期の愛着スタイルと情動生起の関連について. 関西学院大学心理科学研究. 2013;39:31-36.
- 31) 直井莉央, 武井祐子, 門田昌子, 寺崎正治. 恐れ型の愛着スタイルが対人場面における情動生起に及ぼす影響. 川崎医療福祉学会誌. 2021;31(1):81-90.
- 32) 小西 亜実. 青年期の愛着スタイル傾向と社会的適応性怒りの感情と攻撃性の観点から. 臨床心理学研究. 2014;12:125-144.
- 33) 塚本伸一. ソーシャル・サポートと母親の愛着スタイルが育児ストレスに与える影響. 応用心理学研究. 2021;46(3):247-256.
- 34) 藤崎ちえ子, 藤沢直美. 産後うつ病と愛着スタイルをはじめとする要因との関連について. 徳島文理大学研究紀要. 2019;98:49-61.
- 35) 藤中井(松尾)和弥, 福井義一. 小児期逆境経験が身体症状による負担感に及ぼす影響－愛着スタイルを媒介変数として－. 心身医学. 2021;61(2):186-194.
- 36) 村木祐実子, 岡島泰三, 桂田恵美子. 青年期の愛着スタイルと自立との関連. 臨床教育心理学研究. 2012;38:33-38.
- 37) 古村健太郎, 戸田弘二. 助け合いとしてのアタッチメント. 心理学評論. 2020;63(3):263-280.
- 38) 光岡由紀子. 看護師における本来感と感情労働と職業アイデンティティとの関連. 日本看護研究学会雑誌. 2019;42(4):749-761.
- 39) 古屋肇子. 病棟勤務女性看護師への調査データに基づくストレス状況に関する研究. 兵庫県立大学大学院. 2021. 博士(応用情報科学) 藤崎ちえ子, 藤沢直美. 産後うつ病と愛着スタイルをはじめとする要因との関連について. 徳島文理大学研究紀要. 2019; 98:49-61.
- 40) 古屋肇子, 谷冬彦. 看護師のバーンアウト生起から離職願望に至るプロセスモデル. 日本看護科学会誌. 2008;28(2):55-61.
- 41) 福井義一. 成人愛着スタイルと解離傾向の組み合わせが心理的健康に及ぼす影響. 催眠学研究. 2010;52(1):17-27.
- 42) 金政祐司. 中年期の夫婦関係において成人の愛着スタイルが関係内での感情経験ならびに関係への評価に及ぼす影響. パーソナリティ研究. 2010;19(2):134-145.
- 43) 泉玲, 石田弓. 特定の他者ごとに特有な内的作業モデルを想定した愛着スタイルと対人不安の関連の検討. 広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要. 2012;11:55-70.
- 44) 秋葉弓子. 中高年期の攻撃性－自己愛傾向と愛着スタイルとの関連からの検討－. 臨床心理学研究. 2013;11:19-43.
- 45) 岡田博名, 桂田恵美子. なぜ人は攻撃するのか－攻撃性と愛着スタイル及び防御規制との関連－. 関西学院大学心理科学研究. 2013;39:37-42.
- 46) 竹端佑介, 後和美朝. 大学生の愛着スタイルと自己意識および他者意識との関連性. 学校保健研究. 2020;61:331-339.

[Review]

**Literature Review on Factors Influenced by Attachment Styles:
An Examination of the Application of Attachment Styles
in Mental Health Support for Nurses**

NISHIMORI Naomi^{1*}, UEDA Tomoyuki^{2*}

¹ *Graduate School of Nursing and Welfare Studies, Kyushu University of Nursing and Welfare,*

² *Kyushu University of Nursing and Welfare*

[Abstract]

This study aimed to identify trends in research on attachment styles and examine the potential application of attachment styles to mental health support for nurses. A search was conducted using keywords, including “attachment styles” in the Web version of the Central Journal of Medicine until 2021. The target literature included 20 references. The result revealed that university and vocational school students were the most frequently surveyed subjects ($n = 12$), and no literature, in which nurses were surveyed, was reported. Four different attachment style measures were used. The attachment style influenced 44 subscales, which were classified into five categories: cognitive, behavioral, emotional, physical, and social. In particular, many of them showed an association with subscales categorized under Emotions, and four references revealed an association with stress-coping behavior. These findings suggest that attachment style may influence cognitive appraisal and mental health, and suggest the possibility of applying attachment style to mental health support for nurses.

Keywords: *attachment style, nurse, mental health, review*

* Corresponding author. (Naomi Nishimori)